

令和6年度 訪問看護研修ステップ1カリキュラム（訪問看護人材養成基礎カリキュラム）

科目		ねらい	学習の内容	時間
I. 訪問看護概論		保健医療福祉の動向と、訪問看護の位置づけ・役割が理解できる	1. 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護の変遷 2. 訪問看護の役割・機能・特性 3. 訪問看護をめぐる諸制度 4. 訪問看護ステーションの開設・運営の基礎 5. 訪問看護の質の評価 6. 訪問看護で起こり得る倫理的課題と対応	11
II. 在宅ケアシステム論		在宅ケアシステムが理解できる。	1. 地域包括ケアシステムの定義 2. 関係機関・関係職種との機能及び役割と多職種連携 3. ケアマネジメント 4. 在宅移行支援	6
III. リスクマネジメント論 1 リスクマネジメント		1. 訪問看護におけるリスクマネジメントが理解できる。	1. リスクマネジメント〔医療安全〕の概念 2. 訪問看護における事故発生の特徴 3. 医療事故防止 4. 事故発生時の対応 5. 個人情報管理 6. 訪問看護師の労働災害予防	3
2 感染管理		2. 訪問看護における感染予防及び対策を理解し、正しく実施できる	1. 感染管理予防及び対策の基本 2. 感染対策マニュアル 3. 在宅感染管理の特徴 4. 在宅療養者・家族への感染予防支援 5. 感染対策における関係職種との連携 6. 在宅移行支援で注意すべき感染症と感染予防策	6
3 災害対応		3. 訪問看護における災害対応に必要な知識が理解できる。	1. 災害看護の基本 2. 訪問看護における災害対応	3
IV. 訪問看護対象論		訪問看護の対象の特性が理解できる。	1. 訪問看護の対象 2. 在宅療養者の特性 3. 在宅療養者を支える家族の特性 4. 在宅療養者及び家族を取り巻く地域	6
V 訪問看護展開論		「生活を看る」視点を重視した訪問看護の展開を理解し、実施できる。	1. 訪問看護過程 2. 訪問看護の実際 3. 訪問看護の記録	12
VI 1 訪問看護展開のための知識・技術	① 療養生活の支援	セルフケアを重視した在宅での療養生活に必要な環境の調整と日常生活行動の支援ができる。	1. 在宅療養の環境 2. 在宅療養における日常生活行動支援	12
	② コミュニケーション技術（面瀬技術）	在宅療養者および家族を総合的に理解し、支援するためのコミュニケーションのあり方が理解できる	1. コミュニケーションの概要 2. 在宅療養における日常生活行動支援置ける面接技術の基本 3. 面接の実際	6
	③ フィジカルアセスメント	在宅療養者の健康状態を的確にアセスメントし、異常の早期発見ができる。	1. 問診のポイント 2. 視診・触診・打診・聴診によるアセスメント 3. バイタルサインによる病態別、病期別、年齢別アセスメント 4. 症状による呼吸・循環・神経系のアセスメント 5. バイタルサイン測定及び視診・触診・打診・聴診の技術習得	6
	④ リハビリテーション看護	在宅療養者の能力を活かし、自立した生活を再構築するための支援ができる。	1. リハビリテーションの概念と基本的アプローチ 2. リハビリテーションの看護 3. 福祉用具の活用および住宅改修	6
	⑤ 服薬管理	在宅療養における薬物療法の効果的な支援ができる。	1. 薬物の基本的知識 2. 在宅療養における服薬支援 3. 関係職種との連携	6

科目		ねらい	学習の内容	時間
VI 2 医療処置別の知識・技術	① 経管栄養法 中心静脈栄養法 末梢輸液管理	医療処置を伴う栄養摂取に関する支援ができる。	1. 経管栄養法 2. 中心静脈栄養法 3. 末梢輸液管理	6
	② スキンケアと褥瘡ケア	在宅療養者の皮膚や粘膜の状態、創傷状態に合わせたスキンケアができる。	1. スキンケアの基本 2. 在宅で罹りやすい皮膚疾患とケア 3. 褥瘡予防と褥瘡ケア 4. その他の創傷ケア	6
	③ ストーマケア	ストーマケアによる排泄管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。	1. ストーマの定義と種類 2. ストーマケア	6
	④ 間欠自己導尿 膀胱留置カテーテル 腹膜透析	間欠自己導尿・膀胱留置カテーテル・腹膜透析による排尿管理や腹膜透析を必要とする在宅療養者への支援ができる。	1. 間欠自己導尿 2. 膀胱留置カテーテル 3. 腹膜透析 4. 在宅血液透析	6
	⑤ 呼吸管理	在宅酸素療法及び在宅人工呼吸法を必要とする在宅療養者が、安全な呼吸状態を維持するための支援ができる。	1. 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法を要さない呼吸管理 2. 在宅酸素療法 3. 在宅人工呼吸療法 4. 非侵襲的人工呼吸療法：NPPV 5. 侵襲的陽圧換気療法：IPPV 6. 呼吸リハビリテーション 7. 関係職種等との連携及び社会資源の活用	6
VI 3 対象別の知識・技術	① 急変時の看護	急変時の状況に応じた適切な対応ができる。	1. 急変時の対応体制 2. 急変時の主な特徴と対応	6
	② がん看護	がん治療中の在宅療養者の支援について理解できる	1. がんの理解 2. がん看護の実際 3. 家族への支援 4. がん療養者を支援する社会資源	6
	③ 認知症の人の看護	認知症の人が安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1. 認知症の理解 2. 認知症の人への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の理解	6
	④ 精神障がい者の看護	精神障がい者が、安定した在宅療養を維持するための支援ができる。	1. 精神障がい者の理解 2. 精神障がい者の看護の要点 3. 家族への支援の支援 4. 精神障がい者の保健医療福祉に関連する諸制度と社会資源	6
	⑤ 難病の人の看護	難病の人が安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1. 難病の理解 2. 難病の人の看護の実際 3. 家族への看護 4. 療養環境の整備と社会資源の活用	6
	⑥ 疾患や障がいのある小児の看護	疾患や障がいのある小児が、安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 2. 在宅ケアを必要とする小児に対する基礎的な看護 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用及びネットワークづくり	6
	⑦ エンドオブライフケア	在宅療養者と家族が、人生の最終段階を可能な限り安楽に過ごし、最期を迎えるための支援ができる。	1. エンドオブライフケアの特徴 2. エンドオブライフケアにおける在宅療養者の支援 3. 家族への支援 4. チームアプローチ	6
VII 実習・その他	見学実習 ①病院における看護 実践見学実習 1日 ②訪問看護事業所の実践見学、実践実習（同行訪問） 2日	実践を通して、訪問看護に必要な知識・技術を修得する。	1. 訪問看護の見学・実践（同行訪問）により、訪問看護の実際を知る。 2. 訪問看護以外の在宅ケアにかかわる関係機関業務の見学により、その役割や機能を知る。	18
	その他	開・閉講式・オリエンテーション・まとめ等	実習準備・まとめ 開・閉講式、発表会、その他	7.5
	計			180